

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月14日

【四半期会計期間】 第104期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

【会社名】 株式会社日新

【英訳名】 NISSIN CORPORATION

【代表者の役職氏名】 取締役会長 最高経営責任者 筒井 博

【本店の所在の場所】 横浜市中区尾上町6丁目84番地

【電話番号】 該当事項はありません。

【事務連絡者氏名】 該当事項はありません。

(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区三番町5番地
株式会社日新東京事務所

【電話番号】 03(3238)6631

【事務連絡者氏名】 経理部長 石山 知直

【縦覧に供する場所】 株式会社日新東京事務所
(東京都千代田区三番町5番地)
株式会社日新大阪支店
(大阪市中央区平野町3丁目4番14号)
株式会社日新神戸支店
(神戸市中央区江戸町101番地)
株式会社日新千葉支店
(千葉市中央区中央港1丁目9番1号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第103期 第3四半期 連結累計期間	第104期 第3四半期 連結累計期間	第103期
会計期間		自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高	(百万円)	136,020	131,750	179,059
経常利益	(百万円)	3,227	3,165	4,119
四半期(当期)純利益	(百万円)	1,736	1,677	1,951
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	640	2,124	1,625
純資産額	(百万円)	37,107	39,528	38,108
総資産額	(百万円)	100,089	102,410	100,111
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	17.68	17.08	19.88
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	36.3	37.8	37.3

回次		第103期 第3四半期 連結会計期間	第104期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	7.24	8.28

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年12月31日 以下「当第3四半期」）における世界経済は、米国経済が緩やかな回復を続ける一方、欧州における債務問題の長期化に加え、中国をはじめアジア新興国での成長率鈍化など、先行き不透明な状況が続きました。日本では、東日本大震災の復興需要等により、景気の持ち直し基調も見られましたが、期後半では海外経済減速による外需の落ち込みや日中関係の緊張等により、景気停滞感が強まりました。

このような状況下、当社グループでは、アジアを中心に海外事業への注力を加速させるとともに、業務・組織の効率化、不動産等資産の有効活用に取り組むなど、体質の強化を進めました。今年度から来年度にかけ、マレーシア、シンガポール、メキシコにおいて、倉庫施設の拡充を予定しております。

当第3四半期は、東日本大震災やタイ洪水からの回復に伴う自動車生産の増加により、日本、海外ともに自動車関連貨物の取扱いが順調に推移したことに加え、業務効率化の効果により、アジア、米州をはじめ欧州で大きく収益が伸長しました。また、日本での輸入業務は、海上、航空貨物ともに、堅調な取扱いでした。一方、電子部品・部材の取扱いは、当初の想定に比べ日本発の輸出貨物を中心に低調な推移が続きました。旅行事業につきましては、収益性の改善効果が利益を押し上げ、増益となりました。

これらの結果、当第3四半期における当社グループの連結売上高は前年同期比3.1%減の131,750百万円となりました。利益につきましては、海外事業及び旅行事業が大きく寄与したものの期後半に入り国内事業が停滞したことから、連結営業利益は前年同期比0.2%減の2,877百万円、連結経常利益は前年同期比1.9%減の3,165百万円となり、連結四半期純利益につきましては、保有土地への環境対策費を特別損失として計上し、前年同期比3.4%減の1,677百万円となりました。

セグメントの業績

物流事業

日本（平成24年4月～12月）では、輸出海上貨物は、自動車生産の国内外での増産に伴い、四輪完成車、CKDなど自動車関連部品の取扱いは回復しましたが、欧州景気の停滞等により、ソーラー関連の取扱いが低調だったほか、夏場以降は円高、日中関係の影響を受け四輪完成車、自動車関連部品の取扱いも減少しました。輸入海上貨物は、製材・合板関係や鋼材などの好調な取扱いが続いたほか、アパレル、雑貨、家具の取扱いが底堅く推移するなど、全般的に順調でした。

輸出航空貨物は、アジア、北米向け自動車関連部品の取扱いが収益に寄与したものの、円高に加え中国の景気減速の影響もあり、電子部材をはじめ、全般的に伸び悩みました。輸入航空貨物は、北米発の青果・生鮮・食品貨物や医薬品の取扱いが順調に推移しました。国内倉庫・輸送では、引き続き堺ロジスティクスセンターをはじめとした関西地区の各倉庫が高水準な稼働を続け、また、四輪完成車の内航船業務も堅調でした。

海外（平成24年1月～9月）では、米州は、自動車関連部品の取扱いが輸出入ともに大幅に増えたほか、液晶関連の取扱いや倉庫業務が収益に寄与するなど、好調に推移しました。欧州では、自動車関連部品を中心に取扱いが伸びたことに加え、業務効率化の効果により、回復基調をたどりました。アジアは、タイ洪水後の自動車生産回復に伴い自動車関連部品などの航空・海上輸出入がともに大幅に増加するなど、好調でした。中国では、電子部品・部材の航空輸入、電機関連の海上輸出が引き続き順調に推移しました。

この結果、連結売上高は前年同期比0.4%減の96,018百万円、セグメント利益（連結営業利益）は前年同期比7.2%減の2,053百万円となりました。

旅行事業

企業の海外展開の流れが活発化する中、上半期は、業務渡航の取扱が北米、アジアを中心に伸長し、また、団体旅行も特定目的旅行の堅調な推移により増加しましたが、9月以降、日中関係の緊張とそれによる企業業績の悪化の影響を受け、業務渡航、団体旅行共に減速に転じました。一方で、業務効率化と収益性の向上に努め、利益率の改善を図りました。

この結果、連結売上高は前年同期比10.2%減の34,929百万円、セグメント利益（連結営業利益）は前年同期比108.2%増の323百万円となりました。

不動産事業

京浜地区などで展開する商業ビル、商業用地の不動産賃貸事業が安定した収益を確保するなど、引き続き堅調に推移しました。

この結果、連結売上高は前年同期比4.2%増の802百万円、セグメント利益（連結営業利益）は前年同期比2.9%減の493百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間の総資産は、受取手形及び売掛金が減少しましたが、新規借入による現金及び預金の増加や有形固定資産の取得などにより、前連結会計年度に比べ2,298百万円増加の102,410百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金や賞与引当金が減少しましたが、短期借入金の増加などにより、前連結会計年度に比べ878百万円増加の62,882百万円となりました。

純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度に比べ1,419百万円増加の39,528百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	101,363,846	101,363,846	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は、1,000株で あります。
計	101,363,846	101,363,846	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	-	101,363	-	6,097	-	4,366

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成24年9月30日現在で記載しております。

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,206,000	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 532,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 99,163,000	99,163	-
単元未満株式	普通株式 462,846	-	-
発行済株式総数	101,363,846	-	-
総株主の議決権	-	99,163	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。また、「議決権の数(個)」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式988株が含まれております。
3. 従業員持株ESOP信託口所有の株式1,660,000株(議決権の数1,660個)につきましては、「完全議決権株式(その他)」欄に含めて表示しております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社日新	横浜市中区尾上町6-84	1,206,000	-	1,206,000	1.19
(相互保有株式) 原田港湾株式会社	横浜市中区海岸通4-23	234,000	-	234,000	0.23
新栄運輸株式会社	横浜市鶴見区平安町 1-46-1	144,000	-	144,000	0.14
松菱運輸株式会社	大阪市西区西本町 2-1-30	70,000	-	70,000	0.07
丸新港運株式会社	大阪市港区港晴 2-13-35	44,000	-	44,000	0.04
日誠港運株式会社	千葉市美浜区新港88	20,000	-	20,000	0.02
日栄運輸株式会社	神戸市灘区摩耶埠頭 摩耶業務センタービル	20,000	-	20,000	0.02
計	-	1,738,000	-	1,738,000	1.71

- (注) 従業員持株ESOP信託口所有の株式1,660,000株につきましては、上記の自己株式等に含まれておりませんが、会計処理上は当社とESOP信託を一体としていることから、四半期連結貸借対照表においては自己株式として処理をしております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

（役職の異動）

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役常務執行役員 （総合システム部担当、 経営企画部長）	取締役執行役員 （総合システム部、CRE企画室担当、 経営企画部長）	渡邊 淳一郎	平成24年10月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,801	11,813
受取手形及び売掛金	2 25,985	2 24,956
有価証券	87	87
原材料及び貯蔵品	68	45
その他	4,054	3,841
貸倒引当金	373	317
流動資産合計	39,625	40,428
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	51,986	52,943
減価償却累計額	32,042	33,158
建物及び構築物（純額）	19,943	19,785
機械装置及び運搬具	10,867	11,204
減価償却累計額	8,732	8,976
機械装置及び運搬具（純額）	2,134	2,227
土地	16,497	16,516
その他	3,260	3,304
減価償却累計額	2,405	2,385
その他（純額）	854	919
有形固定資産合計	39,430	39,449
無形固定資産		
のれん	196	640
その他	3,506	3,744
無形固定資産合計	3,702	4,384
投資その他の資産		
投資有価証券	12,216	12,690
その他	5,489	5,779
貸倒引当金	173	142
投資損失引当金	179	179
投資その他の資産合計	17,353	18,147
固定資産合計	60,486	61,982
資産合計	100,111	102,410

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 12,819	2 11,706
短期借入金	12,076	15,968
1年内償還予定の社債	600	1,100
未払法人税等	1,122	307
賞与引当金	1,654	834
役員賞与引当金	20	15
独禁法関連引当金	202	-
その他	4,886	5,562
流動負債合計	33,383	35,493
固定負債		
社債	1,800	1,200
長期借入金	20,808	19,934
退職給付引当金	1,254	1,216
役員退職慰労引当金	129	124
その他	4,626	4,913
固定負債合計	28,620	27,389
負債合計	62,003	62,882
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,097	6,097
資本剰余金	4,370	4,366
利益剰余金	28,326	29,315
自己株式	709	609
株主資本合計	38,084	39,169
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,174	2,362
繰延ヘッジ損益	-	4
為替換算調整勘定	2,948	2,798
その他の包括利益累計額合計	774	431
少数株主持分	798	790
純資産合計	38,108	39,528
負債純資産合計	100,111	102,410

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	136,020	131,750
売上原価	116,365	112,190
売上総利益	19,654	19,559
販売費及び一般管理費	16,770	16,682
営業利益	2,883	2,877
営業外収益		
受取利息	29	35
受取配当金	225	232
持分法による投資利益	241	190
為替差益	85	128
その他	251	198
営業外収益合計	833	785
営業外費用		
支払利息	403	371
その他	85	125
営業外費用合計	489	497
経常利益	3,227	3,165
特別利益		
固定資産売却益	22	23
移転補償金	317	-
特別利益合計	339	23
特別損失		
環境対策費	-	405
投資有価証券評価損	166	174
固定資産除却損	15	13
投資有価証券売却損	13	0
減損損失	252	-
特別損失合計	448	593
税金等調整前四半期純利益	3,119	2,595
法人税、住民税及び事業税	867	610
法人税等調整額	452	206
法人税等合計	1,319	816
少数株主損益調整前四半期純利益	1,799	1,778
少数株主利益	63	101
四半期純利益	1,736	1,677

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,799	1,778
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	644	188
繰延ヘッジ損益	1	4
為替換算調整勘定	499	151
持分法適用会社に対する持分相当額	13	1
その他の包括利益合計	1,159	345
四半期包括利益	640	2,124
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	608	2,019
少数株主に係る四半期包括利益	31	104

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
(税金費用の計算) 一部の連結子会社は、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入金等に対して債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成24年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)	
夢洲コンテナターミナル(株)	1,365百万円	夢洲コンテナターミナル(株)	1,354百万円
横浜はしけ運送事業協同組合	874 "	横浜はしけ運送事業協同組合	815 "
(株)ワールド流通センター	572 "	(株)ワールド流通センター	493 "
(株)神戸港国際流通センター	495 "	NISSIN TRAVEL SERVICE(U.K.)LTD (695千GBP)	97 "
NISSIN TRAVEL SERVICE(U.K.)LTD (1,130千GBP)	148 "	NISSIN TRAVEL SERVICE(U.S.A.)INC. (1,000千USD)	86 "
NISSIN TRAVEL SERVICE(U.S.A.)INC. (1,000千USD)	82 "	NISSIN TRAVEL SERVICE(THAILAND) CO.,LTD. (30,000千THB)	84 "
NISSIN TRAVEL SERVICE(THAILAND) CO.,LTD. (30,000千THB)	80 "	青海流通センター(株)	52 "
青海流通センター(株)	64 "	エプソン日新トラベルソリューションズ(株)	14 "
エプソン日新トラベルソリューションズ(株)	17 "	NISSIN TRAVEL SERVICE(CANADA)INC. (45千CAD)	3 "
NR GREENLINES LOGISTICS CO.,LTD. (166千USD)	13 "		
合計	3,714百万円		3,002百万円

- 2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高から除かれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	46百万円	39百万円
支払手形	8 "	24 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	2,291百万円	2,223百万円
のれんの償却額	53 "	71 "

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月23日 取締役会	普通株式	350	3.5	平成23年3月31日	平成23年6月10日	利益剰余金
平成23年11月7日 取締役会	普通株式	342	3.5	平成23年9月30日	平成23年12月9日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、従業員持株ESOP信託口に対する配当金(平成23年5月決議分0百万円、平成23年11月決議分7百万円)を含めておりません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月21日 取締役会	普通株式	343	3.5	平成24年3月31日	平成24年6月11日	利益剰余金
平成24年11月5日 取締役会	普通株式	344	3.5	平成24年9月30日	平成24年12月10日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、従業員持株ESOP信託口に対する配当金(平成24年5月決議分6百万円、平成24年11月決議分5百万円)を含めておりません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	物流事業	旅行事業	不動産事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	96,373	38,877	769	136,020	-	136,020
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8	114	252	375	375	-
計	96,381	38,991	1,022	136,395	375	136,020
セグメント利益	2,212	155	508	2,876	7	2,883

(注) 1. セグメント利益の調整額7百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	物流事業	旅行事業	不動産事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	96,018	34,929	802	131,750	-	131,750
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9	125	324	459	459	-
計	96,028	35,055	1,126	132,210	459	131,750
セグメント利益	2,053	323	493	2,871	6	2,877

(注) 1. セグメント利益の調整額6百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	17円68銭	17円08銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,736	1,677
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,736	1,677
普通株式の期中平均株式数(千株)	98,201	98,249

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 「普通株式の期中平均株式数」については、従業員持株ESOP信託口が所有する当社株式を四半期連結財務諸表において自己株式として会計処理しているため、算定上、当該株式数を控除しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第104期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)中間配当については、平成24年11月5日開催の取締役会において、平成24年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	344百万円
1株当たりの金額	3円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成24年12月10日

(注) 配当金の総額には、従業員持株ESOP信託口に対する配当金5百万円を含めておりません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月14日

株式会社日新
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 雅彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中村 宏之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社日新の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社日新及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。